

2020. 1. 20

畑 啓之

科学技術基本法の第5期（2016～20年）は目標達成困難であるとのことだが

本日の日本経済新聞記事のさわりの部分を示した。本年3月末までの第5期5か年計画が思惑通りには進んでいないとの報道である。

そもそも Society5.0 とは何か？

内閣府のホームページによると、

サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会（Society）

狩猟社会（Society 1.0）、農耕社会（Society 2.0）、工業社会（Society 3.0）、情報社会

（Society 4.0）に続く、新たな社会を指すもので、第5期科学技術基本計画において我が国が目指すべき未来社会の姿として初めて提唱されました。

さらに詳細な説明が続く (https://www8.cao.go.jp/cstp/society5_0/index.html)

なかなか難解である。この Society5.0 を達成するための目標値を定めたというのであるから、これまた難解である。定めた目標値に意味があるのか？ この目標値が達成されたときどのような日本社会が実現するのか？ 目標値を大幅に超えることができる、そのような目標値は設定されているのか？

目標値を、あるいは目標領域を逸脱するようであれば、新たなイノベーションは生まれてこない。国は科学技術の全てを国が（官僚が）分かる範囲でコントロールしたいのか？

日本経済新聞 2020年1月20日

科技計画 問われる実効性



日本の科学技術政策の方針を示す新しい「科学技術基本計画」の検討が本格化する。2020年度までの現在の第5期計画は具体的な目標値を定めたのが特徴の一つだが、引用回数が多い注論文の割合など多くの項目で達成は困難な見通しだ。目標設定の妥当性を含めた課題を検証し、21年度に始まる第6期計画をいかに実効性のあるものにできるかが問われる。

「政府投資不足」の指摘も

5期は目標達成困難 6期検討開始